（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立牛込仲之小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	○主体的・対話的で深い学び、学び合いの重視 ○ＩＣＴ機器の効果的な活用の推進	中間評価	○多くの児童がＩＣＴ機器の活用を通して、主体的に学習活動に取り組むことができているので、今後も継続して行っていく。	最終評価	○年間を通して、児童はICT機器に高い関心をもって取り組むことができた。また、ICT機器を通して意見を交換する学び合いも実現することができた。
環境作り		○授業のユニバーサルデザインを意識した学習環境作り ○児童が認め合い、高め合える温かい学年学級経営		○校内研究で児童同士が認め合える雰囲気を醸成しながら、学習環境を育んでいる。		○自分、友達、学校が大好きになれるよう掲げ、校内研究に取り組み、児童同士が認めあえる雰囲気を育んだ。

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課　題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（２月）
1	国語	学　意欲が高い児童が多いが、平仮名、片仮名をまだ十分に覚えられていない児童が多い。「は　へ　を」の使い方も不十分であるが、読みについては、定着してきている。	・平仮名、片仮名、漢字の習熟をすすめる。 ・話の聞き方や話し方を知り、聞く力と話す力をつけていく。	・片仮名や漢字については、家庭学習として復習に取り入れる。日記の宿題を２学期から始め、原稿用紙の使い方や「は　へ　を」の使い方の練習をする。 ・話の聞き方については、繰り返し「目・耳・心」の校内生活指導ルールを使い指導する。話を丁寧に聞く必要性を考えさせ、指導を継続していく。	・片仮名や漢字の学習や「は、を、へ」の使い方については、国語の学習だけではなく、生活科の「見つけたよカード」や様々な活動の振り返りの際も繰り返し指導を行うことにより、８割程度の児童は正しく使えるようになった。また、デジタルドリルを活用したり、日記や文作りの宿題に取り組んだりすることにより漢字の定着につながった。 ・話すことについては、皆の前でしっかりと発言できる児童が増え、友達の考えを聞こうとする姿勢もよくなった。聞くときに注意がそれてしまう１割程度の児童については、個別に声をかけたり、席を配慮したりするようにした。環境を整えたことにより、少しずつ聞くことに意識を向けられるようになってきた。
	算数	学　時計の読み方や１けた同士の足し算などが定着していない児童かいる。	・答えが１０までの計算の習熟を徹底する。 ・ながさ、かさ、時計などの数量感覚を育てる。	・家庭学習や授業の中でタブレット端末を使用し、ＩＣＴスキルを高め、ドリル学習で習熟を図る。 ・実際の量感が分かるように教材を工夫する。	・おはじきやブロックなど半抽象的な道具を使って大きな数をとらえたり、実際に時計の針を動かすことで時計の読み方をとらえたり、具体的操作を伴って正しく理解することができるようになった。 ・半具体物を動かして確認したり、タブレット端末を使用したりして繰り返し、くり上がり、くり下がりのある計算練習を行うことによって、８割の児童は数の合成分解による計算ができるようになった。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（２月）
2	国語	学　意欲が高い児童が多いが、平仮名をまだ十分に覚えられていない児童が学年で数名いる。	・平仮名、片仮名、漢字の習熟を徹底する。 ・話す力、聞く力を育てていく。	・毎週の日記の家庭学習で、習った文字は使うように繰り返し指導を重ね、間違えている時はすぐに指導する。 ・常に、話し手の目を見て話を聞くように指導を徹底していく必要がある。 ・日頃、スピーチなどを通して話す力について指導していく必要がある。	・日記の家庭学習により、助詞の使い方の間違いや既習漢字を使用することを指導し、改善が見られるようになった。 ・少しずつ話を聞く時の姿勢や態度が良くなってきた。今後も話を聞く時のルールを学校全体で徹底していく。 ・今後も、日直のスピーチを朝の会で取り入れ、話すことに慣れさせていく。	・ビンゴなど児童が楽しく漢字を覚えられるような手立てを行ったことにより、ミニテストで１００点を取る児童が８割を超えた。 ・話を聞く時の姿勢、態度がよくなり、新宿区学力定着度調査では「話すこと・聞くこと」の領域で、全国より４ポイント高いスコアだった。まだ内容を的確にとらえられていない児童もいるので、朝の会などで「プチ聞くテスト」などを行って、聞く力を育てたい。
	算数	学　時計の読み方や１けた同士の足し算などが定着していない児童が何人かいる。	・筆算は、定規を使い、位取りに気を付けて計算することを徹底する。 ・前学年の既習の学習を定着させる。	・筆算を書くときのノートの使い方など、ホワイトボードで児童のノートと同じマス目の見本を映し板書しやすいようにする。 ・マス計算やプリント、デジタルドリルなどを活用し、反復練習ができるようにする。	・板書に書かれている通りに、ノートに写すことが難しい児童が各クラスに数名いるので、個別に声かけして取り組ませ、できたらスタンプや花丸などを付けて意欲を出させるようにする。 ・デジタルドリルの家庭学習は定着してきたので、今後は授業内でも活用していく。	・児童のノートと板書のマスを合わせることで、８割程度の児童は、定規を使って丁寧に線を引き、位取りに気を付けて計算するようになった。 ・デジタルドリルを活用して計算練習を継続して行った。新宿区学力定着調査では「数と計算」の領域で全国より２ポイント低いスコアだったので、ミスをしないで計算ができるよう継続して指導していく。

３	国語	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果より、全体の正答率は目標値を上回っていたが、「話すこと・聞くこと」「文章を書く」項目においては目標値を下回り、課題がある。 学　話す・聞く力や、まとまった文章を書く力には個人差が大きく見られ、苦手意識をもつ児童も多い。	・相手を意識して話したり、聞いたりする活動を継続的に取り入れる。 ・経験したことや想像したことなどから、伝えたいことを選び、日常的に書く活動を取り入れる。	・「日直の話」を毎日設定し、身近な話題の中から話したり、楽しく聞いたりする時間を設定する必要がある。 ・どの時間でも、常に話者に意識を向けて聞く声掛けをし、習慣として身に付けさせる。 ・週に一度は日記に取り組み、書くことへの抵抗感をなくしたり、楽しさを味わわせたりする。	・全体の場で話すことが苦手な児童もいるので、あらかじめ話すテーマを決めるなど、児童にとって取り組みやすい活動にしていく。 ・引き続き声を掛け、「話をしている人を見る」「手に何も持たない」という姿勢を全体で作っていく。 ・書くことへの苦手意識をもっている児童がいるので、伝えたい事をより明確にしたり、「始め・中・終わり」の文章の構成を意識したりして書くことができるよう指導する。	・話題を決めて、話す準備を進めていく活動を行い、テーマに沿って話すことができるようになってきた。自分の考えや、内容が伝わるよう、相手をより意識して話す活動を取り入れていく必要がある。 ・構成メモをもとに物語を書いたり、文章を短くまとめたりする活動を行った。意欲的に書くことができるようになった児童も増え、新宿区学力定着度調査では「書くこと」の領域で全国より１０ポイント高いスコアだった。苦手意識をもつ児童もまだいるので継続して書く活動を行っていく。
	算数	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果より、全体の正答率は目標値を上回っていたが、「２けたのくり上がりのたし算・くり下がりのひき算」「かさの単位の関係」「かけ算の文章題」の項目において目標値を下回り、課題がある。 学　学習意欲の高い児童が多いが、既習事項や量感覚の定着度には個人差がある。	・たし算、ひき算、かけ算の既習学習にも取り組む。 ・文章題の題意を読み取り、正しく演算決定する。	・毎時間「計算タイム」を設け、繰り返しの計算練習ができるようにする。 ・授業の中で、身の回りのものを活用してどのくらいの量かイメージしたり、実際に測ったりする活動を十分に行い、量感覚を身に付けさせる必要がある。 ・文章題を読み、必要な個所に線を引いたり、図を活用したりすることを通して、視覚的にも捉えられるようにする。	・プリント学習や、１００マス計算で習熟を図ってきた。今後もデジタルドリルを定期的に活用していく。 ・長さの単元では、学校内の様々な場所を図り、量感を培いながら友達と学び合うことができた。 ・ＩＣＴ機器を引き続き活用し、児童の考えを書いたノートを基にグループや全体で共有し、様々な方法で考えを表現することの大切さを実感できるように指導する。	・プリントやノートでの練習問題、ドリルを使って家庭学習などは定着している。デジタルドリルも併せて今後も活用し、習熟を図っていく。 ・重さの単元では、身近なものの重さを実際に量り、量感を培いながら学習を進めた。 ・毎時間 ICT 機器を活用したり、図を使って整理したりすることを行った。題意を読み取り、演算決定する力は高まってきたが、理解度の差があるため少人数で個々に合わせた指導を継続して行っていく。
４	国語	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果から、「文章を書く。」という内容で「指定された長さで文章を書く」という設問の正答率は目標値に比べ１０ポイントほど下回った。 学　漢字を正しく書くことに苦手意識を感じる子がやや多い。	・書く活動を多く取り入れる。 ・語彙、想像力など豊かに表現する力を高める。 ・漢字の習熟を徹底する。	・毎週末の日記の宿題や「成長ノート」等を活用して、文字やテーマを決めて、書く活動に取り組ませる。 ・領域「書くこと」の単元では、自分の考え等を明確にすることや段落構成を考える時間を設定する。 ・漢字学習計画表を作成して計画的に漢字小テストを実施し、定着を図っていく。	・１週間に１回以上、自分の考えを言葉で整理し書きとめる習慣がついてきていて、書くことへの苦手意識が少なくなってきている。 ・詩の暗唱や教科書の音読に朝学習等の時間を活用して、繰り返し取り組み、語彙の定着、文章を読む表現力を高める。 ・宿題、漢字小テストで習熟を図ることができるようになってきた。	・国語の時間を中心に、総合的な学習の時間などでも、自分の考えを明確に書き、文章構成する機会を多く設けた。相手を意識して書くこと、様々な表現を使うことができるようになったことで、新宿区学力定着度調査では「書くこと」の領域で全国より１０ポイント以上高いスコアにつながった。 ・漢字小テストでは９割以上得点できる児童が全体の８割を超えた。９割に満たない児童はデジタルドリルに取り組ませて、習熟を確実にした。
	算数	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果から、「たし算とひき算」、「円と球」が設問の正答率は区の正答率に比べ下回った。 学　既習事項の定着度に個人差があり、その差が非常に大きい。	・基本的な計算をミスせず、見直しも含めて確実に計算するように指導する。 ・コンパスや三角定規などの用具を操作する活動を増やし、意識して取り入れる。	・年間を通して授業の始めに、５分間「数と計算タイム」を設け既習内容、基本となる計算力を確実に定着させる。 ・東京ベーシック・ドリル、１００マス計算、宿題等で基礎学力の定着を図る。 ・コンパスや三角定規を扱う際には使用手順を毎時間確認する。また授業の「学習のめあて」を定規で毎回囲ませるなど用具操作を身近にする。	・授業前に計算タイムを設定し、行うことで頭の準備運動になり、スムーズに学習がスタートできている。 ・東京ベーシック・ドリル、１００マス計算、宿題を中心に学力の習熟を図ってきた。今後はデジタルドリルの活用も力を入れ、さらに習熟を目指す。 ・用具や道具の操作を行う単元では、プリントに取り組ませ、一人ひとりの操作手順や図形の正確性などを把握している。より一層の定着が図れるよう、支援していく。	・東京ベーシック・ドリルの復習用プリントや、デジタルドリルを宿題にし、計算問題の習熟を図った。結果、新宿区学力定着度調査では、「数と計算」の領域で全国に比べ６ポイント高いスコアを出すことができた。 ・宿題プリントや授業で行う練習問題では、コンパスや三角定規、分度器を使用する問題を取り上げて、用具の操作向上につなげた。

5	国語	調　調査結果はおおむね目標値を上回っている、目標値と同程度であるが、学力の差が大きく、特に「書くこと」に課題がある。誤答傾向を見ると、無回答が全体の１／４と多い。 学　手紙や感想など、文章を書くことへの苦手意識が強い児童が目立つ。	・書く活動を継続的に取り入れ、書くことへの抵抗を減らす。 ・きれいな文字で見やすくノートなどを書く力をつける。	・国語の授業のはじめ５分を書く活動の時間とし、楽しく書く活動を継続的に行い、書く楽しさを感じられるようにする。 ・授業後のノートを確認し、きれいなノートの手本を示したり、児童のノートを評価したりすることで、きれいなノートを作ろうとする意欲を育てていく必要がある。	・授業の中で学習感想を書いたり、文章を読んで要点を書いたりする活動を通して、児童が書くことができる文章量が増えた。 ・ノート指導について、適時指導を行っているが、定期的な取り組みとなるよう、今後も継続して指導していく。	・文章の推敲をする時に、友達と読みあいながら、良かったところをアドバイスをする活動を行った。そのことで文章を書くことに前向きになったり、新たな文章表現を知ったりすることができた。新宿区学力定着度調査では、「書く力」が全国より４ポイント高かったが、今後、更に向上できるよう、ノート指導、作文指導を続けていく。
	算数	調　調査結果から、「がい数の表し方」、「作図」が目標値を下回っていた。大きい数やおよその数の理解や器具の操作に課題がある。 学　授業でも、定規などの使い方が苦手な児童が多い。	・大きい数や四捨五入など苦手な分野について、授業のすきま時間を活用し、練習問題に取り組み理解を図る。 ・定規、分度器、コンパスなど器具を操作する活動を意識して取り入れ、操作技能を習得できるようにする。	・デジタルドリル、東京ベーシック・ドリルなどを活用して、苦手分野の習熟を図る。 ・ノートをまとめる時に定規を使うことを指導する、また、作図のポイントを写真などの視覚教材で示し、どの子もやり方が分かるように指導をする。	・授業の中でデジタルドリルを活用して、学習の習熟度合いを確認しつつ、基礎学力の定着が図れている。 ・授業でデジタル教科書を活用したり、ＩＣＴ機器を活用した資料提示をしたり、児童が視覚的に分かりやすい工夫を行っている。今後はノートの指導を徹底していく。	・授業や宿題でデジタルドリルを活用することで、学習の習熟や定着を図ることができた。新宿区学力定着度調査では、基礎部分で８ポイント、応用部分で１０ポイント、全国平均よりスコアが上回った。 ・デジタル教科書や ICT 機器の活用によって、多角形や角柱、円柱のような図形の単元も、視覚的に分かりやすく提示でき、学習が苦手な児童の学習意欲が向上した。
6	国語	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果から、「２段落構成で書く。」設問の正答率は区の正答率に比べ９ポイント下回った。無回答が多いことも目立つ。 学　漢字の学習では学習意欲は高いが、字形のバランスや、はね、止め、はらいなどを正確に書こうとする意志が弱い傾向がある。	・文章を書くことに抵抗があったり、手間に感じたりする児童も多いので、楽しく文章を書く経験を増やしていく必要がある。 ・漢字の学習の時間を十分にとり、正しい表記で書きとる力を伸ばす必要がある。	・文章を書くことに慣れさせるために、毎週末、意見作文を書く課題を与え、取り組んでいる。定着させ、文章を書くことへの抵抗を減らしていく。 ・漢字の小テストを頻繁に行い、表記の正誤を児童に認識させていく必要がある。	・週末にあった出来事や将来の夢など、様々な分野の課題に合わせて書くことで語彙力が増え、表現が豊かになった児童が増えた。 ・漢字を正しく書くことができる児童とそうでない児童の差が大きい。小テストを継続的に行うとともに、間違えやすい漢字は授業で繰り返し指導し、定着の機会を多く作る。	・毎週末、課題に沿って作文を書くことで、文章構成を考え、読み手に伝わりやすい文章を書くことができるようになった。書くことが苦手な児童の中には自分で構成メモを作り、文章を書く方法を身に付けた児童もいた。その成果もあってか、新宿区学力定着度調査では記述問題に対する正答率が全国平均に比べ、７ポイント高かった。 ・漢字は繰り返し指導したが、正しく書くことができる児童とそうでない児童の差が出てしまった。
	算数	調　令和３年度新宿区学力定着度調査の結果から、純小数同士の乗法の正答率が目標値を大きく下回った。位取りや小数点の位置などの間違いが目立つ。 学　自分の考えをノートにまとめたり、複数の解き方を考えたりすることに苦手意識を感じている児童が多い。	・小数の乗法、除法などで位取りをしっかりと確認してから計算をさせること、しっかりと見直しをしていく必要がある。 ・授業の中で、自力解決の時間をとって、様々な考え方を交流し合わせる時間をとっていく必要がある。	・デジタルドリル、東京ベーシック・ドリルを活用して計算の練習時間を設け、習熟を図る。 ・授業の中で、自力解決の時間、話し合う時間を設け、意見を交流させる場面を増やしていく。 ・自分の考え、他者の考えがかけているノートを教室掲示し、見本とする。	・デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルで習熟を図っている。小数や分数の計算では、計算のしくみを考えることに時間をかけ、なぜそのような計算方法になるのか理解できるようにしたことで正答率が上がった。 ・自力解決のあとにそれぞれの考え方のよさを比較・検討し、複数の解き方を考えるよさを体験させている。	・小数の乗法、除法は正答率が低いので繰り返し復習を行った。基礎・基本の徹底を行ったことによって、新宿区学力定着度調査では教科総合のポイントが全国平均より６ポイント高かった。 ・立式する際には数直線を描くことを徹底させ、立式の理由を説明できるようになった。また、一般的な解法のほかに、面積図や比を使った考え方も出るようになった。
音楽	学　表現と鑑賞の両領域において、学習指導要領における〔共通事項〕（音楽を形づくっている要素、音楽の仕組み）を使って、音楽のよさや面白さ、美しさを自分の言葉などで伝える力が身に付いていない状況である。		・音楽を聴いて、聴き取り感じ取ったことをもとに、音や音楽のよさや面白さ、美しさについて、根拠をもって自分の言葉などで説明できる力を養う必要がある。	・すべての学習活動において、学習の中心がどの〔共通事項〕に当てはまるのか、言葉のヒントなどを活用し、児童の言葉の引出しを増やしていく。	・学習のめあてが、どの〔共通事項〕に当てはまるのかを意図的に意識させて進めている。今後も曲のなかでの確認を継続して行うことで、自然と身に付くようにしていく。	・鑑賞の学習では〔共通事項〕を手掛かりに、曲のよさや面白さを感じ取り、曲全体を味わって聴くことができるようになってきた。 ・音楽のよさや面白さについて、既習の〔共通事項〕を活用して、言葉や体の動きで表現することができる児童が増えてきた。今後も「言葉のヒント」を活用しながらバランスよく学習を進めていく。
図工	学興味を持って課題に取り組むことはできるが、試行錯誤を通してより学習の深化を図るというところまで到達している児童は半数ほどである。		・自分の興味や作りたいものにとらわれて深化したい学習課題をつかみ損ねる児童もしばしば見られる。	・題材ごと、授業ごとに獲得してほしい力と探求してほしい造形要素を明確にし、言葉やサンプル、児童の作品等を通して児童に提示する。	・板書に表示するめあてをより具体的に表現することにより、児童がめあてをより意識するようになってきた。時間の使い方がうまくいかない児童が３割ほどいるので、制作のアイディアを提供したり、道具の使用方法を再確認したりするなど、個別の支援を充実させる。	・板書を活用して獲得してほしい技能を明示することにより、学習課題を短時間で確実につかめる児童が増えた。導入もこれまでの三分の二程の時間で効率よく行うことができるようになったため、児童の質問を導入に活かすことでより積極的に参加できる児童を増やすことができた。
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。